聖　心

カトリック聖心教会

豊田市聖心町 4-44-13

発行　2024 年 12 月

125 号

「主の降誕祭おめでとうございます」

エルネスト　島袋幹男　主任司祭

名古屋教区では今年の元旦、能登半島で大きな地震と津波でたくさんの人たちが亡くなられて、また、たくさんの人たちが家も失いました。輪島教会も地震で壊されて、その後大雨で亡くなられた人もいました。

今でも落ち着かない心、将来を考えず計画を立てられない能登半島の人たち。今年の主の降誕祭の中で彼らの幸せのために祈りたいのです。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方主メシアである」。（ルカ２：11）。

現在の世界では戦争、争い、憎しみなどで人類は平和で過ごすことできません。それに自然災害で困る世界中の状態。私たちはどんな状況であっても勇気をもって人間の考えではなく、神様の教えで世界の問題を解決するのは大事です。

主イエス・キリストがこの世に来たのは世界中の人々が幸せを見いだすことです。その幸せは主イエスキリストからいただくのです。

今年の主の降誕祭で黙想して、世界の平和のために祈り続けたいと思います。

カトリック聖心教会の皆さんと名古屋教区の皆さんに

神の豊かな祝福が与えられますように。

２０２５年

よい「聖年」になりますように。

インマヌエル

聖霊奉侍布教修道女会

伊藤　晶

待降節に入ると、町にも教会にもクリスマスキャロルが聞こえるようになります。 自然に口ずさんだり、鼻歌を歌ったりしてしまうのではないでしょうか。

日本オリジナルのキャロルは まだまだ少ないようですが、 コンベンツアル聖フランシスコ修道会の赤尾神父様の**「ようこそイエスさま」**や 森司教様作詞（新垣壬敏作曲）の**「きかせてください」**が知られているところでしょうか。

岩橋淳一神父様作詞の **「ハレルヤクリスマス」**もありますね。

「ようこそイエスさま」の歌いだしは、

「わたしたちの なかまに なりたいから イエスさまは てんから こられたんだね
わたしたちの よわさを かんじたくて あかんぼうの すがたで こられたんだね」

実に優しい言葉ですが、福音書に引用されるイザヤ書の「『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」がわかります。

イエスがわたしたちと共におられる神であると。

「きかせてください」では「おうまれになった みどりごが かなしむひとの ともであることを」と歌われ、

「ハレルヤクリスマス」には「深い闇のさなかに きらめく星は 道に迷う人への 神のまなざし」などなど…

どれもうまれた幼子イエスがかわいいとか、誕生のお祝いの楽しさとかは語られません。

イエスが誰であるかを伝えています。 そもそも聖書が伝えるイエス誕生物語の中心は、何が起きたかよりイエスが誰であるかだと思います。

「ようこそイエスさま」の 2 節は

「あなたたちも なかまに なりなさいと イエスさまは このように うまれたんだね」 です。

わたしたちも、お互いに助け合い、支え合う、共におられる神の姿を、生きるようにと促されます。 昔から定番のクリスマスの聖歌もそうですが、あらためて歌詞を味わって、心を込めて歌いたいと思いました。

主の御降誕　おめでとうございます。